


# こども支援アセスメント通信 vol.9

コミュニケーション  
スキルアップ★COM

「応用行動分析」を支援に活かす

## こども支援アセスメント勉強会(1回目)を開催しました

「お子さんの行動を観察・分析し、根拠に基づいた支援を考えて対応できることが、保護者面接での根拠に基づいた説得力のある説明につながる」というコンセプトで、11月15日に「こども支援アセスメント勉強会」をWEBで開催しました。管内外の60名以上の支援者の方が、WEBの中で意見を出し合いながら、日頃のお子さんへの支援でよくある困った行動を分析する技術を学ぶことができました。

<p><b>【応用行動分析】</b> 子どもの行動を次の3つの段階に分けて分析します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> <b>A.事前</b> (Antecedent)         </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; text-align: center;"> <b>B.行動</b> (Behavior)         </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> <b>C.結果</b> (Consequence)         </div> </div>	<p><b>【強化】</b> 望ましい結果(ご褒美=「強化子」)を与えて、その行動を増やすことを「強化」と言います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;">行動</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;">ご褒美(強化子)</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; text-align: center;">行動の増加(強化)</div> </div>
<p><b>【強化子】</b> おもちゃ、お菓子、ほめ言葉、注目など、<b>本人が喜ぶものは「強化子」となります。</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>怒られることも「注目」を得る方法のひとつです。</p> </div> </div>	<p><b>【望ましい行動】</b> その子に望ましい行動は何かを考えます。 望ましい行動を考える際には、次のことに気をつけます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①<b>肯定形</b>の表現であること →×「～しない」「～でない」</li> <li>②<b>具体的</b>な表現であること →×曖昧な表現 「ちゃんと」、「きちんと」</li> </ol>

今回の勉強会のアンケートより、参加者の皆さんの感想をご紹介します。

誤学習が強化されてしまう要因には、自分達支援者の対応が大きく影響されていることが分かりました。

講師の  
本郷佳江先生

練習問題をしていて実際に自園の子どもの姿が頭に浮かびました。さっそく職員間で共有し、研修したことを実践していきたいと思いました。

応用行動分析で子どもの行動だけではなく行動のきっかけ、結果に注目することで子どもの理解を深めていくことを学びました。

練習問題で他の方の解答を共有していただき、自分では思いつかなかった視点を知ることができました。

「強化」の部分。なぜ子どもが同じ行動を繰り返してしまうのかが理解できました。誤学習の根元を学習できた気がしました。

「注意する、じっと睨む」こともご褒美になってしまうことが講話を聞いて理解できました。

2回目の勉強会は12月22日(水)に、宮城県リハビリテーション支援センター(名取市美田園)を会場に、集合型で開催します。起こってしまった行動の「A.事前」「B.行動」「C.結果」を分析し、本来望ましい行動は何か、そのためにできる工夫、具体的対応は何かといった考え方のプロセスを学びます。

参加者の定員に、まだ若干名の余裕がありますので、2回目の勉強会にぜひ参加してみたいという方は、当所健康づくり支援班までお問い合わせください。

# 気になる子どもの アセスメントミニ講座

「見る力①」では、眼球運動についてお伝えしました。  
今回のテーマ「視空間認知」とは、目から入った情報を処理し、それについて理解するための機能です。



字が下手で雑だと思っていたけど、  
見る力が弱いのかも・・・

## 今回のテーマ 「見る力 ②視空間認知」

目でとらえた映像は、そのままだと「点」「線」「色」などの単なる情報に過ぎません。その線の組み合わせを見て「字である」とわかったり、地図を見て自分の現在地がわかったりするのには、視空間認知の働きによるものです。

視空間認知機能は次のような複数の要素に分けて考えることができますので、例示を含めて紹介します。

対象物と背景を区別する	道路を渡る際に信号を見る。周りの障害物や歩行者を避ける。
形や色を認識する	パズルをする際、さまざまなピースを認識し、正しい位置に当てはめる。
同一の形を同じと把握する	字体や大きさが違ってても「A」は「A」とわかる。服装が違っててもその人とわかる。
物と物の位置関係を把握する	ものの上下左右を判別する。物をつかむ時にも必要。

これらの機能に弱さがあると、次のような項目に当てはまることが多くなります。

(幼児期)

- 左右を覚えられない
- 絵本のページがめくれない
- 積木やボール遊びが苦手
- ものや人によくぶつかる



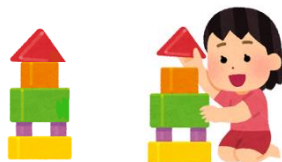
(学童期)

- 読み書きが極端に苦手
- 似た字を間違う
- 漢字が書けない、書き間違う
- 図形の問題が苦手、図形を書くのが苦手



視空間認知を鍛えるためのトレーニングでは、「ものを手で触って動かす」練習をするのが有効です。具体物を使って見本を用意し、その形を再現するようなことや、ワークシートを用いた練習を行います。例えば、

- ・大人が用意した見本に似せてブロックや積み木を作る
- ・服をコーディネートした写真を見ながら、目の前にある服を同じに組み合わせる
- ・ぬり絵を見本と同じように着色する
- ・グリッド点を打ったシートを用い、見本をなぞったり、同じ形を書いたりする 等が挙げられます。



《ワークシートの一例》

ただ単にものを見るための視覚のシステムは生まれたときにほぼできあがっていますが、視空間認知は発達とともに身に付いていくものです。そのためには、実際にもものを見たり触ったり、興味のあるものを目でとらえて手を伸ばしたりと、空間の中で目や身体を使う経験を積み重ねることが必要です。トレーニングを行う際には本人が興味を持てる内容で短時間（数分～15分程度）集中して取り組み、それを継続することが肝要です。お子さんの様子を観察しながら、共に楽しめるような取組を考えていきましょう。

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>  
（「仙台 リハレコ」で検索） QRコードはこちら⇒



[発行・問い合わせ先]  
宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班  
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15  
TEL/FAX: 022-363-5503 / 022-362-6161  
メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp